

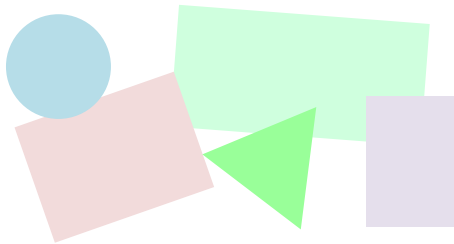
# 神戸っ子アートフェスティバルの歴史

第15回神戸っ子アートフェスティバル実行委員長  
神戸市立玉津中学校長 来田 勝久

「神戸っ子アートフェスティバル」は、神戸市立のすべての幼稚園・小学校・中学校・高等学校と、神戸市内の特別支援学校及び神戸大学附属学校の幼児・児童・生徒の代表作品が一堂に展示され、5校園種すべての作品が揃う全国的にも類をみない作品展です。また、美術館が主催者として企画から携わり、学校園とともに作品を展示し、運営するという先進的な取組といえるでしょう。

①震災前神戸市では、造形・図工・美術の作品展を、各校園種ごとにそれぞれ別で開催していた。

- (1) 神戸市立幼稚園造形展
- (2) 神戸市小学校図工展
- (3) 神戸市立中学校美術作品展
- (4) 神戸市障害児美術作品展



②「神戸っ子ゆめ造形展」として、4校園種で合同開催。平成7年1月17日の阪神淡路大震災後、平成8年度から、ハーバーランドスペースシアターを会場にしてスタートした。

- ・震災でそれぞれの会場が使用できなくなった。以前からあった「神戸市の子供たちの作品を年齢、校種に関係なく一緒に展示してあげたい」という願いが開催を後押しした。
- ・震災後の全国からのご支援に対して「神戸の子供たちのがんばっている姿」を伝えたいという思いもあった。
- ・会場の広さの関係で、2校園種ずつ、前後期制で6年間開催した。
- ・平成13年度、「神戸っ子アートフェスティバル」に名称を変更。神戸復興の拠点地の一つであるHAT神戸の兵庫県立美術館での開催に向けた準備をすすめた。

④平成20年度からは、兵庫県立美術館が「神戸っ子アートフェスティバル実行委員会」に加わり、幼・小・中・特別支援学校の各研究部及び神戸市教育委員会との共同開催として拡大した。

- ・「幹事会」にも、神戸市立小磯記念美術館・神戸市立博物館が参加し、美術館や博物館と学校の連携を発信する展示やコーナーの企画がスタートした。

③平成14年度 第2回「神戸っ子アートフェスティバル」は、兵庫県立美術館3階ギャラリーに場所を移して開催した。

- ・平成14年に完成した「3階ギャラリー」は、広さ814㎡・高さ7.2mの空間があり、4校園種すべての作品が揃った展示が可能となった。子供たちの個性や、年齢による造形表現の多様性や面白さを、広く発信できるようになった。

⑤平成23年度から神戸市立の高等学校が加わることで、すべての神戸市立学校園が参加する作品展となる。

⑥平成24年度より、阪神・淡路大震災、及び東日本大震災からの復興を祈念して神戸市と仙台市の図工・美術研究部会が連携した、「仙台・神戸こども絵画交流展」の仙台市小中学生作品を展示。

会場に展示されている、夢や願いがいっぱいの子供たちの作品を通して、震災から復興してきた「神戸の元気」と、未来を担う子供たちの「生きる力」を育む造形活動のすばらしさを、子供たちの成長過程をたどりながら感じ取っていただきたいと思います。これからも子供たちの思いがより伝わるような展示を工夫しながら、学校と保護者や地域の連携を深め、アートフェスティバルが発展し続けていくことを願っています。